

**令和8年度
広島平和記念式典派遣事業
報告書**



■ 令和 8 年度広島平和記念式典派遣事業 派遣者名簿

No.	学校・学年	氏 名
-	団長（南那須中学校校長）	な ま い ま さ こ 生井 正子
1	南那須中学校 3 年	い と う ほ ず み 伊藤 穂純
2	南那須中学校 3 年	ひ と み こう せい 人見 煌聖
3	南那須中学校 3 年	せ き え り な 関 英里奈
4	南那須中学校 3 年	は し も と な な 橋本 奈々
5	烏山中学校 3 年	こ も り ゆ う り 小森 悠里
6	烏山中学校 3 年	さ げ は し も も 提箸 桃々
7	烏山中学校 3 年	う い お う せい 宇井 凰聖
8	烏山中学校 3 年	す ず き の あ 鈴木 乃愛
-	随行（学校教育課職員）	お や け こう た 小宅 航太

非核平和の市宣言（平成 18 年 12 月 5 日）

核兵器をなくし恒久平和を実現することは、人類共通の願いである。

世界で唯一の被爆国であるわが国は、これを世界に強く訴えていかなければならない。

私たち那須烏山市民は、歴史と伝統に恵まれてきたこの美しい郷土を守り、平和な世界を実現するため、あらゆる国のあらゆる核兵器の廃絶を求めて、ここに「非核平和の市」を宣言する。

南那須中学校 3年 氏名 伊藤 穂純

①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

原爆ドームや、平和記念資料館で見た写真や展示品は、原爆の被害の大きさ、戦争の恐ろしさを物語っていました。それは今でも私の記憶に深く刻まれています。そして、私が何より心に残っているのは、河野さんの被爆者講話です。河野さんのお話は、想像するだけで胸が締め付けられました。たった一発の原爆が広島を壊滅させ、14万人の人の尊い命を奪ったなんて信じたくありませんでした。しかし、それをしっかり現実として受け止め、二度と繰り返さないことが大切なのだと河野さんが教えてくれました。「戦争は絶対にダメ。」原爆の被害にあった方々の思いを、未来に繋いでいきたいと思いました。

②広島平和記念式典に参列して感じたこと

広島平和記念式典に参列し、戦争がどれだけ悲惨なものであっても、平和がどれだけ大切なことなのかを身にしみて感じました。私が特に印象に残っているのは、こども代表による「平和への誓い」です。「私たちには、被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、当時の記憶を事実として受け止める使命があります。目をそらさず、知ろうとすること。悲しい現実でも向き合うこと。」私はこの言葉を聞いて、自分たちが今を生きる一員として、未来に繋いでいかなければならないなと感じました。悲惨な戦争や原爆投下を二度と繰り返さないために、この広島平和記念式典がいつまでも続いてほしいです。

③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

私は、広島派遣事業に参加する前は、戦争はどこか他人事のように感じていました。しかしこの事業に参加し、実際に戦争の悲惨さを自分の目で見て、感じたことで、関係のない人なんかいないのだと感じました。もう二度とこのような悲劇を繰り返さないために、私にできることは、この事業を通して改めて感じた戦争の悲惨さを自分事として捉え、周りの人に、そして次の世代に伝えることです。実際に自分の目で見て感じる、という貴重な体験をさせていただき、本当に感謝しています。この事業に参加した一人として、被爆者の思いや願いを未来に繋いでいきたいです。核兵器のない平和な世界を願っています。

南那須中学校 3年 氏名 人見 煌聖

①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

原爆ドームを見て、最初に感じたことは、意外と小さく感じました。しかし、小さく感じたはずなのに存在感がとてもありました。平和記念資料館は、現実をつきつけられている感覚になりました。特に、当時の写真や当時の状況を描いた絵、ボロボロな衣服が、生々しかったです。こども平和サミットに参加したときは、平和の大切さをより再確認することができました。特に、被爆者体験講話の被爆された方の話を聞いたときは、あまりにも悲惨で生々しく、聞いているだけでも心が傷つきました。

②広島平和記念式典に参列して感じたこと

広島平和記念式典に参列して、私は心から参列してよかったと感じました。なぜなら、テレビ中継で式典を見るのと、現地で生の音を聞いて現地の空気を感じるのとでは全く別物だからです。テレビ中継で見ているときはただ見ているという感じに対し、現地で参列すると気持ちが入り、市長や県知事、総理大臣の話を集中して聞くことができました。

③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

私は、世界中の全人類、全生物が共存できる世界にしたいです。そのためには、まずは自分が平和への行動をし、周りも平和にしなければいけないです。また、被爆者が生きている時代を生きる自分が平和への行動をし、周りも平和にしなければいけないです。また、被爆者が生きている間に悲惨であったあの頃の話聞き、後世に伝えていかなくては いけません。そして、助け合いながら共存できる世界を作っていきたいです。

南那須中学校 3年 氏名 関 英里奈

①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

広島の人々や亡くなった方々の思いを間近に感じることができました。実際に写真や映像を見ることで他人事のように感じていた戦争を身近に感じることができました。原爆ドームを見て原子爆弾がどれほど広島に脅威をもたらしたかが身に染みてわかりました。被爆者証言や亡くなられた方が残した日記から戦争は二度と起こしたくないと思いました。これから生きる私たちがこの出来事を忘れないよう、しっかり覚えておき、先人たちの思いを受け継いで平和な世の中を作り上げていきたいと思います。

②広島平和記念式典に参列して感じたこと

原爆や戦争を体験していない人でも悲惨さを理解し、後世に伝えていこうとする姿勢に感動し、私も先人の思いを受け継いでいきたいと思いました。国内外問わず、平和記念式典に参加してもらい、平和の大切さと戦争の悲惨さをより多くの人に知ってもらいたいと思いました。誰もが式典に参加できるわけではないので、貴重な体験を忘れずに残していきたいと思います。広島の方々の証言を聞いて、私も戦争と平和についてより深く学び、世界に発信していきたいと思いました。

③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

私は、世界から核がなくなれることを願っているし、世界で核を減らすことへの取り組みをより注意深くしてほしいと思います。核の保有数は未だに増え続けており、その脅威を知るのは世界で日本だけなので、核は絶対使わないでほしいということを、インターネットや経験を利用して世界に伝えていきたいと思います。核が減り、最終的にはなくなることを目指して平和への取り組みと戦争をなくしていく取り組みをしていきたいです。

南那須中学校 3年 氏名 橋本 奈々

①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

私は今回の広島派遣事業で様々な施設、イベントを訪れて、知らなかった戦争の実態や自分の身で体感した空気があり、とても貴重な経験を得られたと思います。また、被爆体験者の方の講話では、あの時の広島と戦争への思いを切実に語る体験者の方を見て、自分と同じくらいの年齢の子がどうしてそんな目にあったのかととても悲しい気持ちになりました。またそれと同時に、このような悲劇は絶対に繰り返してはならないという決心を改めて実感させられました。

②広島平和記念式典に参列して感じたこと

広島平和記念式典では、参加する人全員が厳粛にかつ真摯に式典に臨まれていて、ここでは皆が同じ思いを持っているとよくわかりました。式典が進むほどに胸が苦しくなってきた、原爆死没者である多くの人々への悲しみに苛まれました。しかし、然るべき場ではそのような気持ちに押し負けるのではなく、強い思いを持って戦争と向き合う必要があるという新たな学びになりました。この時の貴重な経験は、きっとこれからの人生で改めて訪れる機会は少ないだろうと思い、精一杯その光景を目に焼き付けました。

③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

今回の経験で私は、「自分の学んだ思い」を伝え、誰かにまた平和の大切さを繋げていくことが一番大切なことだと学びました。原子爆弾を保有する国は未だ存在し、唯一の被爆国である日本が伝えていかなければいけない歴史がある。今までの戦争の知識・見解はもちろん、今回の広島派遣事業で得た経験を大切に、周りの人達にその思いを発信していきたいです。そして、これからも意欲的に戦争への理解を深め、平和への最初の一步を踏み出していきたいと思います。

鳥山中学校 3年 氏名 小森 悠里

①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

これまでは原爆によって14万人の方が亡くなり、広島市の建物の9割がなくなっ
たという抽象的な事実しか知りませんでしたが、原爆ドームや平和記念資料館を見学し、原爆
の与えた実際の被害や、被害者の様子を見ることで、原爆の被害をリアルに感じることが
できました。青少年平和文化イベントでは、河野キヨ美さんによる講話が特に印象に残っ
ています。原爆投下後の地獄のような広島の話や、火傷だらけだった生存者の話から戦争
は絶対にしてはいけないと深く実感しました。

②広島平和記念式典に参列して感じたこと

広島平和記念式典では、献花や献水、平和への誓いや平和への祈り、来賓の方の挨拶を
聞きました。僕が式典の中で特に印象に残っているのは、国内外問わず様々な国の方が平
和を祈っているところです。今も様々な国で戦争や紛争などの争いが起きています。そん
な中でもみんな、平和を祈る心は変わらないんだなと思いました。国境関係なく、すべて
の国で協力して、一日でも早く完全な平和が訪れてほしいです。

③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

僕が一番伝えたいことは平和は一人の力では成し遂げられないということです。被爆体
験講話や被爆者の写真、原爆について描かれた絵など様々なものを見ていくうちに、こん
な悲惨な記憶や記録を思い出しながら話したり、絵を描いたりしているのはなぜだろうと
思うようになりました。それは、同じ過ちを繰り返さないでほしいという強い思いからだ
と考えました。自分一人が原爆の被害を知っていても、知っているだけで平和をつくるこ
とはできません。だから僕は、広島で学んだことを周りの人に伝えることで、平和につい
て考えるきっかけを作り、みんなで平和について考えるようにしたいです。

鳥山中学校 3年 氏名 提箸 桃々

①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

ある程度の原爆についての知識はあっても実感をしたことがありませんでした。なので、参加をさせていただいて資料や被爆者の方のお話をもとに「本当にあったことなんだ。ここまでの被害を出してしまうほど危険なものなんだ。二度と繰り返してはいけない。」と改めて思いました。実際に肌で感じることは初めてだったので、悲惨さを訴えるような写真やイラストに吐き気がするほど恐ろしさを感じました。また、被爆者である河野キヨ美さんのお話がとても印象に残っています。その目で見えてきたからこそその伝え方に感銘を受けました。

②広島平和記念式典に参列して感じたこと

内閣総理大臣や広島県知事、国際連合事務総長のお話を聞き、自分以外の方の平和や原爆に対する思いや考えを知ることができました。また、広島市長の平和宣言も心に残っています。特に「世界の為政者の皆さん。市民社会は一日も早い核兵器廃絶を願っています。いったい、いつまで失望させ続けるのですか。」の問いかけるような文に自分が核兵器を持っているわけではなくても、原爆によって亡くなってしまった方に訴えかけられているような感覚に陥りました。

③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

この事業に参加するまでは、どこか他人事のように感じていました。なので「平和」について自分を主体として考えていましたが、広島や資料を見て自分だけじゃなく、自分を含めたみんなで考えていかなければならないと思いました。また、講話をしてくださった方が「平和だ」と言っているのを聞いて、この状況を作ることは簡単ではないけれどだからこそ諦めてはいけないと思いました。私はスピーチをする機会があるので、それらを利用したり、生徒会は文化祭で発表をするのでより多くの人に伝えていけるよう考えたいと思います

烏山中学校 3年 氏名 宇井 凰聖

①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

私は原爆ドーム、平和記念資料館、青少年平和文化イベントで原爆が起こした凄惨な過去を学ぶことができました。

平和記念資料館では実際の被爆者の写真、絵、遺品などが記憶に残っています。その中でも特に被爆者の絵が一番むごく、なんとも言えないような気持ちになりました。

青少年平和文化イベントでは実際の被爆者からの話が一番記憶に残っています。実際の被害者しかわからないような話を聞き、当時の状況がどれだけ酷かったかが想像できました。

この原爆ドームや平和記念資料館、青少年平和文化イベントなどを通して考えたこと、感じたことを忘れずに未来へと繋げていきたいです。

②広島平和記念式典に参列して感じたこと

私は式典に参加して想像していた以上の雰囲気の高さを感じました。特に始まった瞬間は一気に雰囲気が変わったなと実感するほどです。

そんな式典で私は80年前この近くで実際に原爆が落ちたのだなと実感させられました。

私はこの広島平和記念式典に参加してこの広島で起きたことの重大さを実感しました。式典の朝は雲一つないほどの快晴で、当時ここで原爆が落とされたとは思えないほどでした。しかし式典に近づくにつれどんどんその気持ちは消えていきました。黙祷の時間には式典にいた人全員と同じ気持ちだったと思います。

この経験を忘れずにいたいです。

③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

私はこの広島派遣事業を通して様々なことを学び貴重な体験をすることができました。特に戦争の意味の無さを実感しました。

80年前に実際に起ってしまった悲劇をもう二度と繰り返さないように、広島派遣を通して聞いたこと、見たこと、感じたことや当たり前の大切さ、尊さを家族や友達に実際に行ってみないとわからないようなことを積極的に話していこうと思います。また、世界平和という大きな目標を掲げるのではなく、まずは、自分の身近にいる人を大切にし、お互いを思いやる小さな優しさから始めていきたいと思っています。

烏山中学校 3年 氏名 鈴木 乃愛

①原爆ドーム・平和記念資料館・青少年平和文化イベント等を見学した感想

教科書やインターネットで見た写真よりも戦争の悲惨さがよく伝わりました。原爆ドームでは 80 年もの月日経って尚私たちに過去の出来事や戦争や核がどれほど危険なものだったのかを教えてくださいました。平和記念資料館では、被爆者の方の写真や人々の日常だったものが展示されているのを見て、私の胸が強く締め付けられました。全国平和サミットでは、被爆者の話やいろいろな方々の話を聞き、私が今できることを改めて考えることができました。

②広島平和記念式典に参列して感じたこと

多くの国や遺族、団体などが参加しており、世界全体が平和について考え、行動を起こしているのが伝わりました。平和宣言や平和への誓いを聞いて、今生きている私達が、何をすれば一歩でも核廃絶や戦争のない世界へと近づけるのかを考え、他の人と話し合うことがどれほど大切なのかがわかりました。

③平和への願いや伝えたいこと、これからの私の取り組み

戦争を少しでも減らすために大切なのは、他の人、特に若い人々の声を届かせるスペースを作り、一つでも多くの意見に耳を傾けることだと私は思いました。戦争について学び、議論し、考えて行動をすることで、平和への思いが伝わると思っています。今回の体験を決して無駄にせず、学校での発表や日々の生活で戦争や核、そして現在の広島、そして日本のことを話し、皆さんに興味を持ってもらいたいです。